



HEMARAJ NEWS

ヘマラート ニュース

http://www.hemaraj.com

vol.23

CEO Talk

CEO トーク
デビッド・ナードン
2016年1月4日
— 草稿

「2016年はタイが競争力を高める好機」

エネルギー価格が低下したにもかかわらず、国内と世界の景気が低迷していることを反映して、タイにおける投資とGDP成長率はこれまで伸び悩んできました。国内の自動車市場では取引が低迷して成長が減速し、輸出も中国、米国、日本などの大規模市場への依存率が30パーセントと高止まりしたままで、集中度が高い状態が続いています。タイにとっては、国内と海外の双方で投資と販売網を拡大して製造業のスケールメリットを



高める、従来のアセアン以外の輸出市場競争力を強化する上で、これまで多年にわたり、アセアンが成長市場となり、ビジネス機会が拡大されるものと期待されてきました。そして、ミャンマーの将来性の高まりと、ベトナムの経済と製造業の力強い成長、および限定的ではあるものの、カンボジアとラオスの経済活動と製造業の拡大に伴って、アセアンの可能性は確かなものとなりつつあります。

タイからベトナム、カンボジア、ラオス経由で中国その他の諸国を結ぶ主要幹線道路と将来的な鉄道網の接続・改善は、貿易を拡大して輸出を成長させる上で重要な要因となります。また、物的なインフラ、物流、税関制度の整合化、および各国個別の規則、規定の複雑さなどの問題を解決する必要があります。しかし、タイ東部臨海地域で道路の改良とメンテナンスがとうとう実行に移されつつあるのは喜ばしいことです。この地域は、過去20年間にわたって工業への大規模な投資が行われたことにより、道路整備が不十分で不適切な状態となり、港湾にアクセスしにくくなっています。特にこの10年間は、実際的にはなればらま政策に多額の国家予算が投じられ、高速道路、港湾、地方道路への投資が不足していました。

しかし、現在開発が進められている国境経済特区(SEEZ)は、長きにわたり低迷しているタイの斜陽産業や低コスト労働による製造業の競争力では成功が見込めません。その理由の1つは、これらの特区が国境の間違った側に位置していることです。国境SEEZが立地する土地は暴騰価格で購入され、そのほとんどは労働力の供給が不十分な上、地域住民の同意も得られておらず、環境およびその他の区域指定に関連する問題を抱えています。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどの近隣諸国は、GDP税や雇用による収入の恩恵がなければ、外国人労働者とその家族の住宅、教育、健康衛生にタイを抱えている問題を解決することはできません。

第一、新興のCLMV諸国は雇用コストが非常に低く、利用可能な労働力も豊富で、衣料品その他の割当量のメリットがあるほか、GSPおよび間もなく発効が見込まれるTPPなどに参加して貿易特権を得ることができ、国境をまたぐ製造施設を設けることにより、最終的には賃金や消費の格差が縮まり、タイの製造業の製品市場とサプライチェーンをこれらの国々に拡大する上で前向きなインパクトが生まれます。

アセアンは決して均質な市場ではなく、EUやその他の拡張貿易市場と肩を並べる消費者購買力もありません。自動車分野では、2018年の時点でもマレーシアとシンガポール、およびタイの市場にとって、より大きなビジネス機会、アセアン域内の製造施設統合を通じて自らの競争力を高めることによって得

られ、タイが競争力を持つ分野は、依然として観光、付加価値農業および製造業であり、特に自動車は重要な産業です。この競争力強化を実現するには、航空宇宙、先端技術、およびその他の高付加価値産業を振興する投資恩恵を実施するとともに、人的資源と研究開発の面でも環境を整える必要があります。2016年については、タイ経済が可能性の限界に達してしまっているのではないかと懸念があります。中国を含む近隣諸国は、通貨切り下げにより生じる圧力によって成長率が低下する可能性があります。また、タイではエネルギーコストと金利が上昇し始めているにもかかわらず、農産物価格の値下がり、北部地方の継続的な干ばつに見舞われています。そして、自動車分野におけるタイ政府方針の長期的な見直しにはマイナス要因が含まれている可能性があります。例えば、省エネルギーや有害排気ガス削減の目標値を同程度クリアする他の技術よりハイブリッド車や電気自動車に優遇する点などです。「エコカー2」制度には、4

これらの輸出市場と全体的な国境貿易活動は、小規模ではあるものの、成長を続けています。タイからCLMV+M(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)およびマレーシアへの輸出は、2014年には総輸出額の14.7%、2015年の1-9月は14.19%を占めました。また、タイ製のハードディスクドライブ、電子機器などをシンガポールまでトラック輸送する場合には有望なマレーシアとの代替物流運送の成長を反映し、国境貿易が拡大しています。

タイからベトナム、カンボジア、ラオス経由で中国その他の諸国を結ぶ主要幹線道路と将来的な鉄道網の接続・改善は、貿易を拡大して輸出を成長させる上で重要な要因となります。また、物的なインフラ、物流、税関制度の整合化、および各国個別の規則、規定の複雑さなどの問題を解決する必要があります。しかし、タイ東部臨海地域で道路の改良とメンテナンスがとうとう実行に移されつつあるのは喜ばしいことです。この地域は、過去20年間にわたって工業への大規模な投資が行われたことにより、道路整備が不十分で不適切な状態となり、港湾にアクセスしにくくなっています。特にこの10年間は、実際的にはなればらま政策に多額の国家予算が投じられ、高速道路、港湾、地方道路への投資が不足していました。

アセアンは決して均質な市場ではなく、EUやその他の拡張貿易市場と肩を並べる消費者購買力もありません。自動車分野では、2018年の時点でもマレーシアとシンガポール、およびタイの市場にとって、より大きなビジネス機会、アセアン域内の製造施設統合を通じて自らの競争力を高めることによって得

られ、タイが競争力を持つ分野は、依然として観光、付加価値農業および製造業であり、特に自動車は重要な産業です。この競争力強化を実現するには、航空宇宙、先端技術、およびその他の高付加価値産業を振興する投資恩恵を実施するとともに、人的資源と研究開発の面でも環境を整える必要があります。2016年については、タイ経済が可能性の限界に達してしまっているのではないかと懸念があります。中国を含む近隣諸国は、通貨切り下げにより生じる圧力によって成長率が低下する可能性があります。また、タイではエネルギーコストと金利が上昇し始めているにもかかわらず、農産物価格の値下がり、北部地方の継続的な干ばつに見舞われています。そして、自動車分野におけるタイ政府方針の長期的な見直しにはマイナス要因が含まれている可能性があります。例えば、省エネルギーや有害排気ガス削減の目標値を同程度クリアする他の技術よりハイブリッド車や電気自動車に優遇する点などです。「エコカー2」制度には、4

られ、タイが競争力を持つ分野は、依然として観光、付加価値農業および製造業であり、特に自動車は重要な産業です。この競争力強化を実現するには、航空宇宙、先端技術、およびその他の高付加価値産業を振興する投資恩恵を実施するとともに、人的資源と研究開発の面でも環境を整える必要があります。2016年については、タイ経済が可能性の限界に達してしまっているのではないかと懸念があります。中国を含む近隣諸国は、通貨切り下げにより生じる圧力によって成長率が低下する可能性があります。また、タイではエネルギーコストと金利が上昇し始めているにもかかわらず、農産物価格の値下がり、北部地方の継続的な干ばつに見舞われています。そして、自動車分野におけるタイ政府方針の長期的な見直しにはマイナス要因が含まれている可能性があります。例えば、省エネルギーや有害排気ガス削減の目標値を同程度クリアする他の技術よりハイブリッド車や電気自動車に優遇する点などです。「エコカー2」制度には、4

られ、タイが競争力を持つ分野は、依然として観光、付加価値農業および製造業であり、特に自動車は重要な産業です。この競争力強化を実現するには、航空宇宙、先端技術、およびその他の高付加価値産業を振興する投資恩恵を実施するとともに、人的資源と研究開発の面でも環境を整える必要があります。2016年については、タイ経済が可能性の限界に達してしまっているのではないかと懸念があります。中国を含む近隣諸国は、通貨切り下げにより生じる圧力によって成長率が低下する可能性があります。また、タイではエネルギーコストと金利が上昇し始めているにもかかわらず、農産物価格の値下がり、北部地方の継続的な干ばつに見舞われています。そして、自動車分野におけるタイ政府方針の長期的な見直しにはマイナス要因が含まれている可能性があります。例えば、省エネルギーや有害排気ガス削減の目標値を同程度クリアする他の技術よりハイブリッド車や電気自動車に優遇する点などです。「エコカー2」制度には、4

ヘマラート社、SAICモーター・CP社との間で大規模な土地売買契約を締結

バンコク、2015年11月26日中国に本拠を置く自動車メーカー、上海オートモティブ・インダストリー・コーポレーション(SAIC)と、タイのチャールソン・ポクバンド・グループ(CPグループ)により2013年に設立された自動車合弁会社であるSAICモーター・CP株式会社は、ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社との間で、タイのチョンブリー県にあるヘマラート・イースタン・シーボード工業団地2(ヘマラートESIE2)の土地437.5ライの売買契約を締結しました。

本契約は、ヘマラート社が今年締結した土地売買契約で最大規模となるもので、SAICモーター・CP社ではこの土地に新しい製造工場の建設を計画しています。工場の建設は2期に分けて実施され、第1期は2016年初頭に開始

される見込みです。新工場の最大生産能力は年間20万台となる予定で、国内と海外の両市場に製品を供給し、東南アジアにおける同社の生産ハブとなります。ヘマラート社のジャリール・ポーン・ジャルコーンサクン取締役兼副会長兼執行委員長は、次のように述べています。「SAICモーター・CP社の経営陣の皆様には、生産拡張計画を通じてヘマラート社に対し変わらぬ信頼をお寄せいただいていることに、心よりお礼を申し上げます。この土地売買契約は、ヘマラート社にとってSAICモーター・CP社およびMGブランドとの強い絆を示す、誇らしいものであると同時に、タイの自動車産業にとっては重大なイベントとなるものです。」

ヘマラート社のデビッド・ナードン社長兼CEOは、次のように述べています。「この土地売買契約は、投資先としてのタイの魅力を確認し、東部臨海地域において自動車産業クラスターを拡大させるうえでヘマラート社が備えているメリットとリソースを確認するものです。ヘマラートESIE2は優れたインフラストラクチャー、海抜120メートルの堅固な地盤、およびSAICモーター・CP社が製造事業を拡張するうえで理想的なロケーションを備えたワールドクラスの施設を提供します。」

SAICモーター・CP社のWuhan社長は、次のように語っています。「このヘマラートESIE2の土地の購入は長期的な投資であり、我々のグループが発展を続けるための重要なステップとなります。タイは我々の合弁事業にとって素晴らしい産業基盤であ

り、ヘマラート社は東部臨海地域における自動車産業クラスターの開発でリーダーとしての役割を担っていることから、ヘマラート社との協力を一層強化して弊社の生産施設を増強できることを非常に嬉しく思います。」

SAICモーター・CP社は、2013年にヘマラート社との間で初めての賃貸工場リース契約を締結しました。この賃貸工場はヘマラート・イースタン・シーボード工業団地にあり、総面積1万7,280平方メートルを占めます。中国とタイの合弁企業である同社は、この一目的生産施設から、同社がタイで組み立てた初めての自動車であるMG6サルーンを2014年6月に発売しました。これに続き、今年の3月にMG3ハッチバック、10月にはMG5サルーンを発売しました。

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラート社について
ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、タイにおける工業団地、インフラ、電力、賃貸工場、ロジスティクスパーク、および不動産

ヘマラートで更なる飛躍を目指す企業

S and L Specialty Polymers Co. Ltd. 南アジア・中東・ASEANを狙う積水化学グループの海外事業



グローバル需要に対応する生産拠点 環境配慮型の工場が産み出すCPVC

S and L Specialty Polymers Co., Ltd. (以下、S&L社)は、塩素化塩化ビニル樹脂(CPVC)の生産会社です。2013年4月に、積水化学工業株式会社(日本)とルーブリゾール・アドバンス・マテリアルズ社(米国)が合併で設立しました。この合併は業界内大手同士ということで、大きな注目を集めました。その生産工場をマブタブット・ヘマラート・イースタン工業団地に建て(2014年着工)、2015年3月の試運転を経て、同年6月より本格稼働・生産を始めています。

「S&L社は、積水化学グループの海外事業のひとつとして重要な役割を担っています。これまで積水化学グループでは、CPVCはグループ内の原料部門企業である徳山積水工業株式会社(山口県)で生産していましたが、海外(特に近年はアジア等)での需要が増え続け、更なる生産拠点が必要となりタイに新設しました。ちなみに徳山積水では年間4万トンのCPVCを生産していますが、この工場では3万トン(初年度)を生産します。翌年(2016年度)は、生産量を増やして4万トンの予定です。将来的にさらに需要

が増えるとの予想から、同敷地内で年間6万トン程度まで増産できる増設可能なプラントを作りました」と、S&L社の取締役CEOである江口吉彦氏は述べています。

CPVCは、塩素を付加した特殊な塩化ビニル(PVC)樹脂で、耐熱性に優れており、このことから給湯用・工業用・スプリンクラー用の配管材などの原料として用いられています。

市場・マーケットは、インド、中東、東南アジアなどに広がっています。「CPVCを用いた配管材は、電力供給が不安定な場所でも簡単に施工することができるので、この点からも盛んに求められています。前述の国々では、住宅や工場などの建築物に使用されている配管材の、金属製からCPVC製への代替が進んでいます。また、新しい建築物での需要も旺盛です。」

このプラントの事業展開には、マブタブット・ヘマラート・イースタン工業団地が最適だったそうです。

「ここは、レムチャパン港に近く、CPVC生産で最重要である原料(塩素)の調達しやすいなど、「地の利」があります。また、ユーティリティも優れています。CP



り、AECGの中で、グローバルコスト競争力でもお客様のニーズに応えられるのです。

宮後インダストリー・タイランド 卓越した技術を持つ“金型スペシャリスト”がタイで飛躍



精密な金属加工技術と連携で、 金型設計からアッセンブリまで対応

宮後インダストリー・タイランドの中村水男取締役社長は、ヘマラート・サブリ・インダストリアルランドを選定した理由を、「受注する仕事の内容や取引先などマーケティング・リサーチの結果、立地はこの周辺に絞っていました。ロジスティクスを視野に入れ、2011年のタイの洪水被害とその後のことも調べた上でのごとです」と、述べています。

会社設立から稼働までわずか半年、という早さでした。「日本と

中国での前歴と繋がりから、ありがたいことに、タイへ進出するならすぐにでも発注すると言ってくれた取引先があったので、急いでいました。レンタルだからできたのだと思いますし、何よりもヘマラートランド&デベロップメントの厚いサポートがあったから。会社設立時から色々と助けてもらい、とても感謝しています。今もサポートが続けられ、サービステキも良く、満足しているそうです。

カーオーディオの製造からスタートした宮後工業は、日本では電機音響機器、カーナビ、自動車関連部品、コピー機の液晶画面周囲の金属部品などを製造しており、タイでもこれらを主にしています。ワイヤー加工機、三次元測定機など高性能な工作機械測定機等を駆使して製作する高精度な金型、板厚0.05ミリ、3.0ミリまでの精密部品のプレス加工、その他、長年培った高精度プレス加工技術は、「NAGANOものづくりエクセレンス」に認定されました。タイでもその技術を活かし、宮後インダストリー・タイランドの主要製品は、TV・IT・OA機器及び自動車関連部品の製作、上記部品の金型設計・制作、電子機器

基板の実装及び組立です。

強みは、金型の設計から製造、検査だけでなく、電子部品のアッセンブリから製品検査に至るまで、あらゆる工程を担えること。プレス部門・金型部門・電子部門の連携や、日本および中国にある工場間で、金型ネットワークが構築されているからできるのです。なお、工場は2棟に分かれ、ISO90001(品質)とISO14001(環境)を認証取得しており、TS16949(信頼性)も取得予定です。高レベルな技術力と生産能力が、環境配慮やマネジメントシステムを成しています。

また、「タイではこの先も伸びる可能性がある物(例えばエアバッグ)の市場開発や、新しい製品の開発」にも着手しようとしています。ASEAN経済共同体の発足にも注目しており、「日本の大手メーカーなどで『タイ・プラーサー』を考えているところもあるようですが、それでもタイの工業は引き続きASEA



Nの中心で、私達にもきつとメリットがあるはず。タイから新しい市場開発もしていきたい」という将来のビジョンを持っています。

金型のスペシャリスト集団が、タイ工業界の柱になっている自動車生産の中に入り込んで新たな市場を得て、そして時代を担う製品を生産して飛躍していくでしょう。

ヘマラート社、 斜面保護に持続可能なソリューションを採用

タイ東部は高地と低地からなるため、この地域における工業団地の開発では、将来の工場建設を適切に行えるように、各土地区画ごとに斜面を削ったり盛土をしたりする必要が生じます。平坦な土地が造成されると、斜面の切り取りや盛土によって区画の横に新たな斜面ができることがあります。土壌の浸食を防ぐために適切な土木技術を使用しなければ、この斜面のために下流の土地が悪影響を受け、川岸が浸食されたり、水路が塞がれたりする可能性があります。

土を行うと、斜面の先端が隣接地の一部を占有してしまいます。斜面勾配が60〜80度の境界を作るには、土壌とジオグリッドを使用する補強技術が必要です。



2. 斜面の保護および河川の護岸

ヘマラート社では、自社の工業団地が立地する地域における自然のままの水路の維持を常に優先してきました。川岸の浸食を防ぐために、蛇籠の擁壁を利用しています。



ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、こうした状況について十分に把握しており、最も環境に優しく、持続可能な手法で工業用地を開発するために、斜面の保護、地表浸食の抑制、河川の護岸および土壌強化を確実に実現できる最も適切かつ効果的な方法を見つけるために努力しています。地質工学的土木技術に関する10年間にわたる研究に基づくと、斜面保護対策は次の3つのカテゴリに分けられます。

1. 斜面安定性

ある区画の土地を通常の斜面勾配の1:2 (V:H)で盛



3. 地表浸食の制御

地面の掘削や盛土からの粘土堆積物は、周辺地域の環境に影響を及ぼす可能性があります。このため、ヘマラート社では、わらでできた生物由来物質である「バイオマット」を使用して斜面を保護し、地表浸食を制御することにしました。このイノベーショナルは、周辺地域に住む農民向けの仕事の機会を生み出すうえでも役立ちます。農民は工業団地が必要とするわらを供給するために、蛇籠の擁壁を利用しています。



以前、ヘマラート社では斜面にコウライシバ (Zoysia matrella) を植えていました。効果が持続しないことがわかりました。その主な理由は、この草の育ち方がまばらで、しかも鳥が種を食べてしまふことです。そこで、「ルジ」(Bracharia ruziziensis) という草に変えてみたところ、根が長く、土の奥深くまで根を張るため、地表浸食の制御に適しており、乾燥や湿度への耐性も高いことがわかりました。また、この草は、湿度を保ちながら、強風や過度の高温から保護する役割も果たします。



ヘマラート社では、斜面に土を掘って土の層を作ったから、ルジ草の種を蒔きました。そのエリアは、ココナッツの外皮繊維であるコイアで作られたバイオマットで完全に覆われました。仕上げの手順は、鳥害防止ネットがこのエリアを覆うことでした。この方法では、ルジ草を新

ヘマラート社、 環境保護の取り組みを一段と強化

ヘマラート・ランド・アンド・ディベロップメント株式会社は、工業団地と地域社会が自然と調和して共存可能な方法により、環境を保護するための大胆な策を講じてきました。ヘマラート社は様々な制度や取り組みを通じて、



みを通じて自社の工業団地ののみならず周辺地域も緑豊かで環境に優しいものとすべく努めてきました。

弊社の最も新しい取り組みの一つは、自社の7か所の工業団地と4か所のロジスティクスパーク内の街灯を高圧ナトリウム (HPS) 灯からLED電球にすべて交換する6,950万バツ相当の契約を Lekise Lighting 株式会社との間で締結したことです。この契約により、総延長100 kmにおよぶ道路の街灯、合計5,450基が交換されます。交換作業がすべて完了するまでには約3か月かかる見込みです。期待される効果はというと、今年の第3四半期までに使用電力が66%と大幅に低下し、

に植えるたびに、地表の土とわらを毎回再利用できます。周辺の地域住民にとって、ルジ草が安価で大量に使用できる家畜飼料にもなります。

ヘマラート社の目標は、ワールドクラスのインフラストラクチャーと発展をお客様に提供し、それぞれの事業運営に専念していただけるよう、効果的に環境に優しいソリューションを実現することです。この研究は現在も進行中であり、弊社は「企業の社会的責任」のビジョンに従っ

「タイの持続可能な成長」のために力を尽くします。



二酸化炭素排出量が削減されました。新しい街灯は色調も柔らかく目に優しいため、夜間でも周囲がよく見えるようになり、物流業者やあらゆる道路ユーザーにとって道路の安全性が高まっています。

さらに、弊社ではこの大規模な省エネルギーの取り組みをすべての工場と倉庫、そして今後の工業団地開発プロジェクトに広げていきたいと考えています。このLED電球プロジェクトに先立って、昨年の末にはヘマラート社と、タイにおける大手電力開発会社であるガルフ・エナジー・ディベロップメント (GED) 社により、もう一つの環境保護プログラムが立ち上げられました。



これまでヘマラート社が推進してきた革新的な環境保護プロジェクトは、政府省庁や関係機関の関心を集めてきました。イースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) は、タイ工業団地公社 (IEAT)、工場局および工業省により、タイにおけるエコ工業団地開発のバイオニアの一つに選出されました。環境保護に対するヘマラート社の決意を示すもう一つの例として、工業団地では初めてのリアルタイム環境モニタリング機器である Enviro 2 の設置が挙げられます。このプロジェクト

発展のパートナー、ヘマラート

ワールドクラスの工業団地7ヶ所に650社以上のお客様が入居

タイの大手工業団地開発会社
工場立地に最適な東部臨海地域 (ラヨン、チョンブリ) とバンコク北部 (サラブリー) に7ヶ所の工業団地を有し、500 m²~50,000 m²までの賃貸工場と物流倉庫もご用意しております。

ヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社
TEL: 662 719 9555 電子メール: marketing@hemaraj.com
Web サイト: www.hemaraj.com

ワールドクラスの工業団地開発会社

効果は低減するだけでなく、クーリングで騒音公害も引き起こしません。

6か所に設置されるソーラーユニットは、発電容量がそれぞれ72 kWp、57・75 kWpおよび126・50 kWpで、ヘマラート・チョンブリ工業団地、ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地、ヘマラート・ロジスティクスパーク1およびイースタン・シーボード工業団地です。発電を開始しています。6ユニットの合計発電容量は、598・25 kWpに達する見込みです。

環境を保護する「グリーン・ビジョン」

これまでヘマラート社が推進してきた革新的な環境保護プロジェクトは、政府省庁や関係機関の関心を集めてきました。イースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) は、タイ工業団地公社 (IEAT)、工場局および工業省により、タイにおけるエコ工業団地開発のバイオニアの一つに選出されました。環境保護に対するヘマラート社の決意を示すもう一つの例として、工業団地では初めてのリアルタイム環境モニタリング機器である Enviro 2 の設置が挙げられます。このプロジェクト

トは IEAT の協力の下に実施されました。この機器が置かれているセンターは、同じくイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) にあり、極めて信頼性が高い手法と透明性の高いポリシーに従って環境報告書をリアルタイムで作成できます。また、Enviro 2 は環境問題の通報およびフィードバックを行うための複数の電子的な手段も提供しています。

ヘマラート社は、プミポン国王陛下が主導された生物学的廃水処理の考え方に従い、アジア工科大学 (AIT) と協力して環境に優しく、自然をベースにした工業団地に最適な湿地プロジェクトを共同開発しました。人工湿地を用いると、廃水を効率的に処理でき、処理過程におけるエネルギー消費も抑制できます。人工湿地で処理された水は、工場で園芸その他の目的に再利用可能です。



また、ヘマラート社のエンジニアリング・チームは、廃水処理およびスラッジ処理システムの開発も推進しています。プラバ大学とラヨン県ブルアック・デーン農業局の土地開発ステーション (ラヨン) の

の協力を得て実施した実験では、スラッジと廃水を農業用の土壌改良材として利用できることが明らかになりました。特にゴム、キャッサバ、冬瓜の栽培に効果を発揮します。

ヘマラート社のデビッド・ナードン社長兼CEOは、あらゆる関係者にメリットをもたらす企業市民としてのヘマラート社の取り組みを支持しています。「緑地を増やすことを目的とした植樹活動などのように非常にシンプルでプロジェクトから、100 kmにわたる道路の街灯をLED電球に変える先進的な試みまで、ヘマラート社は企業顧客の皆様、従業員、近隣の地域社会や政府関係機関との間で強固な関係を築くことに誇りを感じながら、協力し合っています。」



ヘマラート社は、持続可能性、社会的連帯および環境保護を最大限に重視した、環境に優しい工業団地の基準を設定できるとを誇りとしています。

ヘマラートニュースダイジェスト

日本フッソ、新工場の開所式を開催 ESIE (ラヨーン) で

最高品質のフッ素樹脂コーティングを提供する日本フッソ(タイランド)株式会社は先日、イースタン・シーボード工業団地(ラヨーン)において新工場の開所式を開催しました。日本の大阪にある本社と同じ最高水準の規格に厳格に従って建てられたこの工場の完成により、同社は最先端のコーティング・ソリューションを提供し、この地域の様々な産業で高まりつつある需要に対応することが可能になります。

写真は、ESIE (ラヨーン) の最新鋭工場を行う、IEATのアナン・シーブラパービロン取締役(右から1人目)工業株式会社の豊岡敬(トヨオカ・サル)社長(左から2人目)、日本フッソ(タイランド)社の佐藤仁社(サトウ・ヒトシ)社長(中央)と、ヘマラート社のラッド・ロジャナウィライウッド工業団地顧客開発担当部長(右側)。



日本精蠟社の新工場が稼働 ヘマラート ESIE で

日本の石油ワックス業界最大手企業の子会社、日本精蠟(タイランド)株式会社は先日、ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地で新工場の開所式を開催しました。総工費6億2,000万バートをかけて完成した新工場は、高品質のワックスを供給する同社の能力を一段と高める最新鋭の生産システムと最先端のテクノロジーを完備しており、ゴムや化学などの業界を含む様々な分野で拡大しつつある需要に応えることが可能になります。

写真は、新工場の開所式で日本精蠟(タイランド)社の安藤司取締役(右から3人目)が、ヘマラート社のタンニ・スプーンルアン副社長(左から2人目)から記念品の国王陛下の肖像写真を受け取っているところ。



ヘマラート EIE で新工場の開所式を開催

積水化学工業株式会社とLubrizol Advanced Materials との合弁会社で、塩素化塩化ビニル (CPVC) 樹脂の生産会社であるS and L Specialty Polymers社は、先日、ヘマラート・イースタン工業団地(マブタブット)において新工場の開所式を開催しました。総工費17億バートの新工場は最先端の生産システムとテクノロジーを完備しています。この工場の完成により、同社は高品質な製品を生産し、南アジア、アセアンおよび中東で高まりつつある需要に応じていきます。

写真は、ヘマラートEIE (マブタブット) でヘマラート社のウィット・ジラティカーンサクン上級副社長兼最高執行責任者(左から2人目)が、S and L Specialty Polymers社の江口吉彦CEO(右から2人目)に国王陛下の肖像写真を記念品として贈呈しているところ。



WHAがタイランド・コーポレート・ エクセレンス・アワードを受賞

WHA コーポレーション株式会社は先日、2015年タイランド・コーポレート・エクセレンス・アワードおよびSME エクセレンス・アワードの授賞式において、TMA・サシ・マネージメント・エクセレンス・アワードを受賞しました。これらの賞は、コア・コンピテンシーに基づいて効率化を推進するために優れたプロ意識と能力を示した中規模の企業に対し、タイ経営者協会(Thailand Management Association, TMA)とチュラロンコン大学のサシン経営学大学院が共同で授与するものです。

写真は、WHAコーポレーションのジャーボン・ジャルコンサクンCEO兼副会長(右側)が、ウイステイ・スリスパン財務副大臣(左側)よりTMA・サシ・マネージメント・エクセレンス・アワードの授与を受けているところ。



ヘマラート社、インベスター・クラブ・ セミナーを開催

ヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社は先日、新たに導入されたタイの移転価格(TP)に関する最新情報を伝達し、それに関連する最も一般的な問題について討議するために、「移転価格監査の準備と法人税還付申請」と題するセミナーを開催しました。このセミナーの講師は、Deloitte Touche Tohmatsu Jaiyos Advisory 社の移転価格担当税務ディレクター、チャイラク・トラックフンモントウリ氏と法人税担当税務ディレクター、ベンジャマス・スリスモンマン氏です。このセミナーには、ヘマラート社の工業団地入居企業の財務および会計部門に所属する50名以上の上級管理職の方々が参加しました。



ヘマラート社、第7回年次会議を開催

ヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社は先日、第7回経営者向け年次労務会議を開催しました。この会議にはヘマラート社の工業団地に入居するタイと海外の製造企業から136名以上が参加しました。会議のセミナーでは民間部門と政府機関からの来賓講演者が、労務管理に関するさまざまな懸案について意見を交換しました。討議の主なトピックは以下のとおりです。

- ・東部臨海地域における労働状況と労使関係の動向
- ・最低賃金の決定に関する現実的な解決策およびその影響
- ・エンジニアリング専攻学生実習プログラムから得られる利益
- ・エンジニアリング専攻学生実習プログラムの労働統合学習(WIL)



写真は、会議の来賓講演者と、ヘマラート社のデビッド・ナードン社長兼CEO(中央)、ウィット・ジラティカーンサクン上級副社長兼COO(右から2人目)とその他の経営陣。来賓講演者は、労働省のベッチャラット・シンウアイ事務次官補(左から4人目)、BLCIグループのチャムナン・ピモンラタナ労働コンサルタント(右から3人目)、ウエスタン・デジタル(タイランド)株式会社のディーラサック・サグアマンナサクン人事採用課長(左から3人目)、およびモンクット王工科大学トンブリ校(KMUTT) 研究・イノベーション・パートナーシップ研究室のサラヤ・トンレック博士(右から4人目)。

ヘマラート社経営陣は、アンチャリー・プラサートチャン工場・ロジスティクスパーク顧客開発担当部長(左端)、フリープレム・マラシット工業団地研修センター・新規プロジェクト担当部長(右端)、およびジャバパス・チャンタチャイロート法人マーケティング・不動産顧客開発担当部長(左から2人目)。

ヘマラート社チーム、東京海上日動の訪問団を歓迎

チュラロンコン大学のサシン大学院研究所(Sasin Graduate Institute)で開催された経営セミナーに参加するために、東京海上日動のマネージャー26名が日本から訪れました。このセミナーには、ヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のシヤバス・チャンタチャイロート法人マーケティング・不動産顧客開発担当部長(前列右から6人目)が講師として招かれ、ヘマラート社の概要、および持続可能な地域社会開発と環境保護を目的としたヘマラート社の「企業の社会的責任」プログラムについて講演を行いました。



積水化学の子会社、セキスイ・スペシャルティ・ケミカルズ(タイランド)社が ヘマラート EIE で新工場の開所式を開催

自動車、医薬、建設、IT の各業界で使用される高性能材料の大手メーカー、積水化学工業株式会社の子会社であるセキスイ・スペシャルティ・ケミカルズ(タイランド)株式会社は先日、ヘマラート・イースタン工業団地(マブタブット)において新工場の開所式を開催しました。この最新鋭の製造工場により、同社はアセアンおよび南アジア市場で拡大しつつある顧客企業の需要に応えることが可能になります。

写真は、ヘマラート EIE (マブタブット) でヘマラート社のラッド・ロジャナウィライウッド工業団地顧客開発担当部長(左から3人目)が、積水化学の加藤敬大専務執行役員(右から4人目)と與倉久執行役員(右から3人目)に国王陛下の肖像写真を記念品として贈呈しているところ。



ヤマモリ(タイランド)社、新工場の開所式を開催 ヘマラート社の工業団地で

日本の醤油メーカーであるヤマモリ(タイランド)株式会社は先日、ヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社が開発したイースタン・シーボード工業団地(ラヨーン)において、ヤマモリ・グループにとってタイで2番目の製造施設となる新工場の開所式を開催しました。この近代的な工場には日本のノウハウ、技術と規格が採用されており、タイ国内および海外の顧客向けに本格的な日本の醤油を製造します。

写真は、開所式でヘマラート社のデビッド・ナードン社長兼CEO(中央)が、ヤマモリ株式会社の三林憲忠社長(右から3人目)とヤマモリ(タイランド)社の青木理浩マネージング・ディレクター(左から3人目)、服部憲昌 エグゼクティブ・ディレクター(右から2人目)に国王陛下の肖像写真を記念品として贈呈しているところ。



豊田通商(泰国)社、スピリット・ハウス・セレモニーを開催 ヘマラート ESIE の新支店で

自動車分野および非自動車分野の輸出入、仲介、取引と小売の各種サービスを提供する大手企業、豊田通商(泰国)株式会社は先日、ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地の新支店においてスピリット・ハウス・セレモニーを開催しました。このセレモニーでは、同社の事業機会の拡張と、世界中の潜在顧客を対象とした最善のサービスとソリューションの提供が祈願されました。

写真は、ヘマラート ESIE の新支店のスピリット・ハウス・セレモニーで祈願を行う同社のチャット・チャオウシタ会長代理と、セレモニーに出席した同社経営陣。



WHA 社とヘマラート社、 インテリジェンス・ウェアハウス展示会に共同で参加

タイで最大かつ最も総合的な工業団地・物流企業グループである WHA コーポレーション株式会社とヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社は、「インテリジェンス・ウェアハウス」展示会に共同で参加し、新たな投資家を引き付ける新しい製品やソリューションの展示を行いました。このイベントは、タイにおける物流産業のサポートを目的として先日、ムアントンタニの「インパクト」で開催されました。

写真は、「インテリジェンス・ウェアハウス」展示会でヘマラート社のシヤバス・チャンタチャイロート法人マーケティング・不動産顧客開発担当部長(左から5人目)と、WHA コーポレーションのラヴィー・ブランダ事業開発担当取締役(右から4人目)が、両社の社員と共に工業省のウリット・スリノコート副次官に記念品を贈呈しているところ。



ヘマラート社、医薬品セットを無償提供 タシット地区の住民に

ヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社は先日、ラヨーン県タシット地区の住民300名に医薬品の提供を行いました。この活動は、ヘマラート社の「企業の社会的責任」(CSR)プロジェクトの一環で、近隣地域に住む人々の健康促進を目的としたものです。

写真は、ヘマラート社のスヤ・バオアブーン・トーン法人部門担当マネージャー(左から3人目)と、タシット地区自治体のブーンスー・ピムボ区長(左から4人目)。



ヘマラート EIE で第28回献血活動を実施

ヘマラート・イースタン工業団地(ヘマラート EIE) のイースタン安全・環境クラブ(ESEC)は先日、赤十字ラヨーン県支社と協力し、ヘマラート EIE において第28回献血活動を実施しました。今回の献血活動では、ヘマラート社の従業員、入居企業関係者、地域住民など、165名の協力を得て合計7万2,800ccの血液が集まりました。献血された血液は、輸血を必要としている人々のために、ラヨーン県のタイ赤十字社に直ちに届けられました。



ヘマラート社、運河の架橋を支援 マブチャルッド・チャックラン地区で

ヘマラート・イースタン工業団地(ヘマラート EIE) のイースタン安全・環境クラブ(ESEC)は先日、マブチャルッド・チャックラン地区のチャックラン運河に橋を架ける作業への支援活動を実施しました。このプロジェクトのために、サイヤム・ヤマト・スチール株式会社、ライ・コト建設・サービス株式会社をはじめ、多数の建設会社より建築資材と建設機械が提供されました。このプロジェクトは、地域社会の公共の利益を支援し、高めることを目的としたものです。



ヘマラート・サラブリ工業団地、 2015年度の火災・緊急避難訓練を実施

ヘマラート・サラブリ工業団地(ヘマラート SIL)は、サラブリ県のウィチエン・プッティウィンユ知事、ノンケー地区とノンブラモエ地区の自治体関係者の協力の下に、火災および緊急避難の訓練を実施しました。この保安活動は、ヘマラート SIL のナロンサック・チャックヤン現場監督が指揮し、ヘマラート SIL にあるサイアム・ミシュリン株式会社の敷地内で行われました。

